

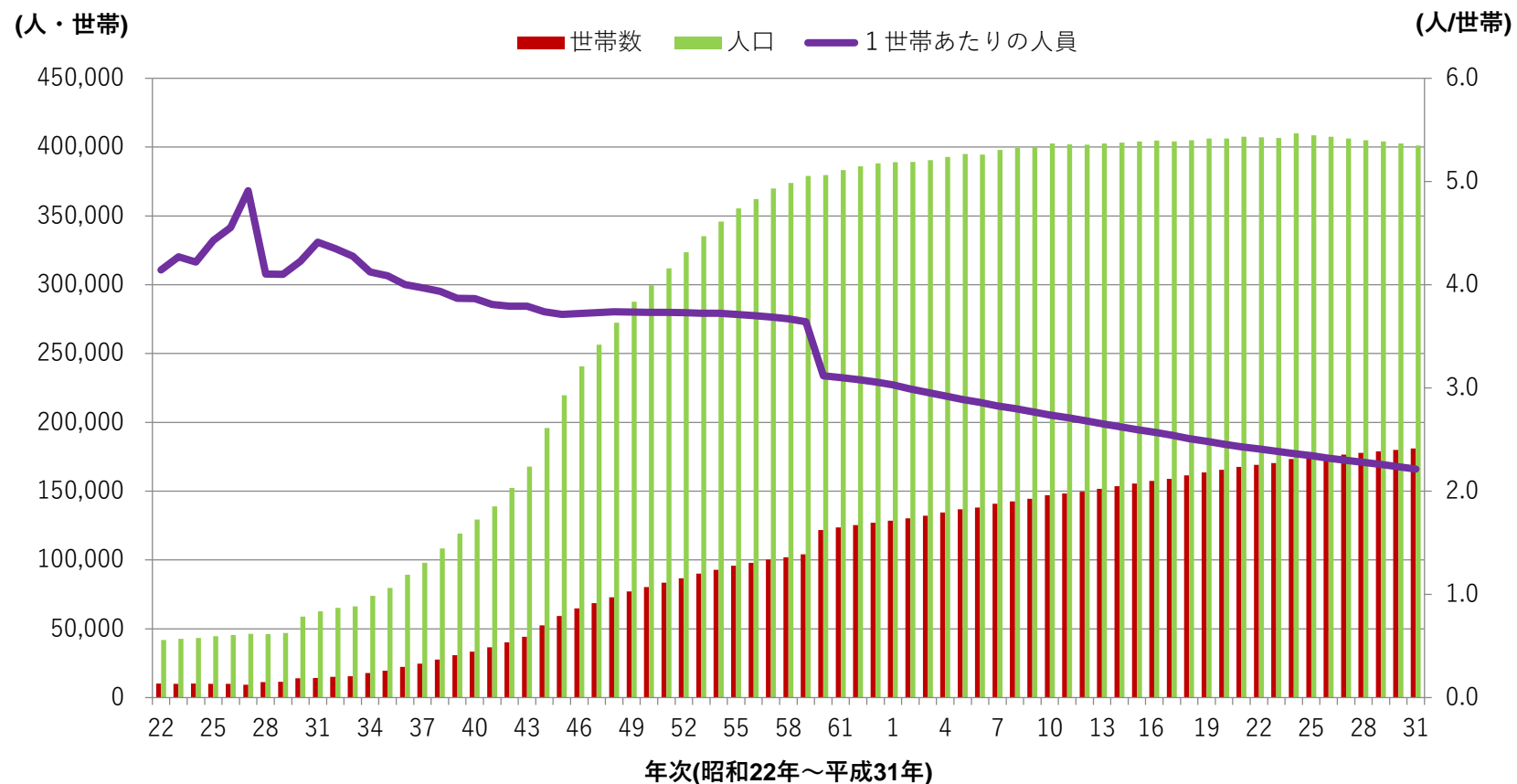
## ①枚方市の空き家及び空き地の現状について

### 1.人口と世帯の変化

#### (1) 人口と世帯の推移

本市の人口と世帯数は、市制施行時の昭和22年当時は41,887人、10,112世帯（1世帯あたり的人员4.1人）でしたが、人口、世帯数ともに増加し、平成24年には人口409,964人、173,344世帯となりました。

人口は、平成24年をピークに減少に転じ、微減傾向が続いており、平成31(2019)年度は401,074人となっています。一方、世帯数は増加し続けており、平成31（2019）年度は181,062世帯（1世帯あたり的人员2.2人）となっています。



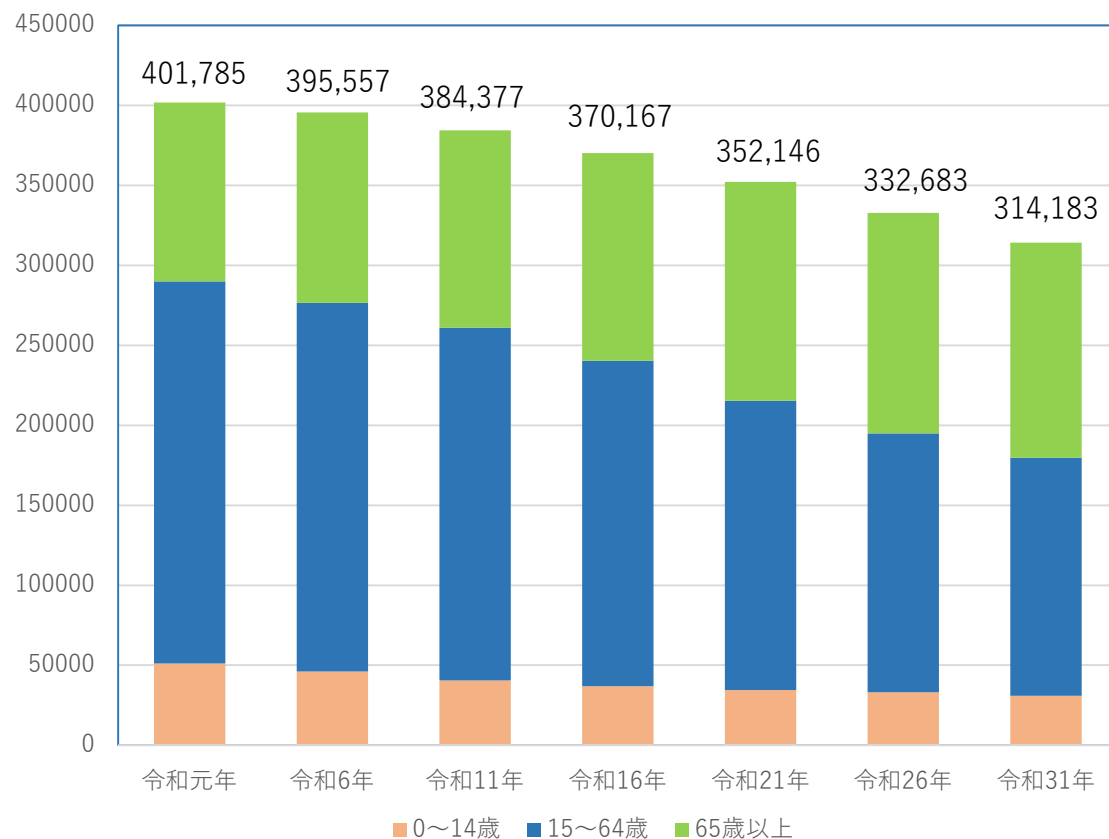
出展：人口の推移・動態・外国人人口  
 (枚方市総務管理課HPより)

## （2）人口の将来推計

本市が令和2年2月に行った将来人口推計では、令和元年から令和31年までに約87,600人の減少が予想されています。また、地域別の人口については、「北部地域」が最も多く、「南部地域」、「中部地域」が続き、「東部地域」が最も少なくなっています。

地域別人口推計では、「南西部地域」の人口減少率が最も低く、「中東部地域」、「中南部地域」が続き、「東部地域」の人口減少率が最も高い結果となっています。

(人)



### 【参考】地域別人口推計

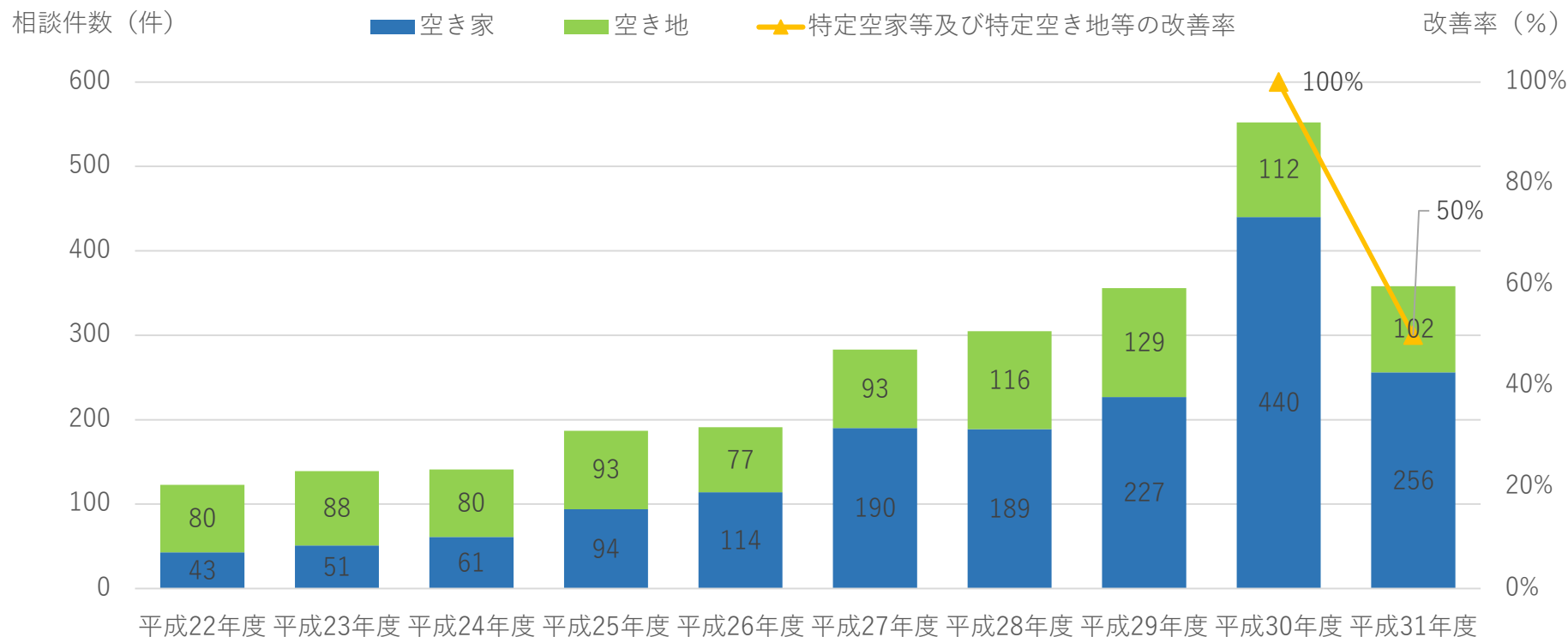
	令和元年	令和31年	増減数
北部地域	89,303	68,503	▲20,800 (▲23.2%)
中部地域	70,554	54,663	▲15,891 (▲22.5%)
南西部地域	46,504	38,718	▲7,786 (▲16.7%)
南部地域	81,218	62,735	▲18,483 (▲22.8%)
中南部地域	47,035	36,832	▲10,203 (▲21.7%)
中東部地域	57,315	45,466	▲11,849 (▲20.7%)
東部地域	9,856	7,274	▲2,582 (▲26.2%)

## 2. 管理指標の推移について

### （1）枚方市における特定空家等及び特定空き地等の改善率

特定空家等及び特定空き地等の改善率は平成30年度は認定・措置ともに1件、100%となっています。令和元年度は新たに特定空き地等を認定したため、50%となりますが、新たに認定した特定空き地等についても手続きを進めており、対策の状況としては良好に進行しています。

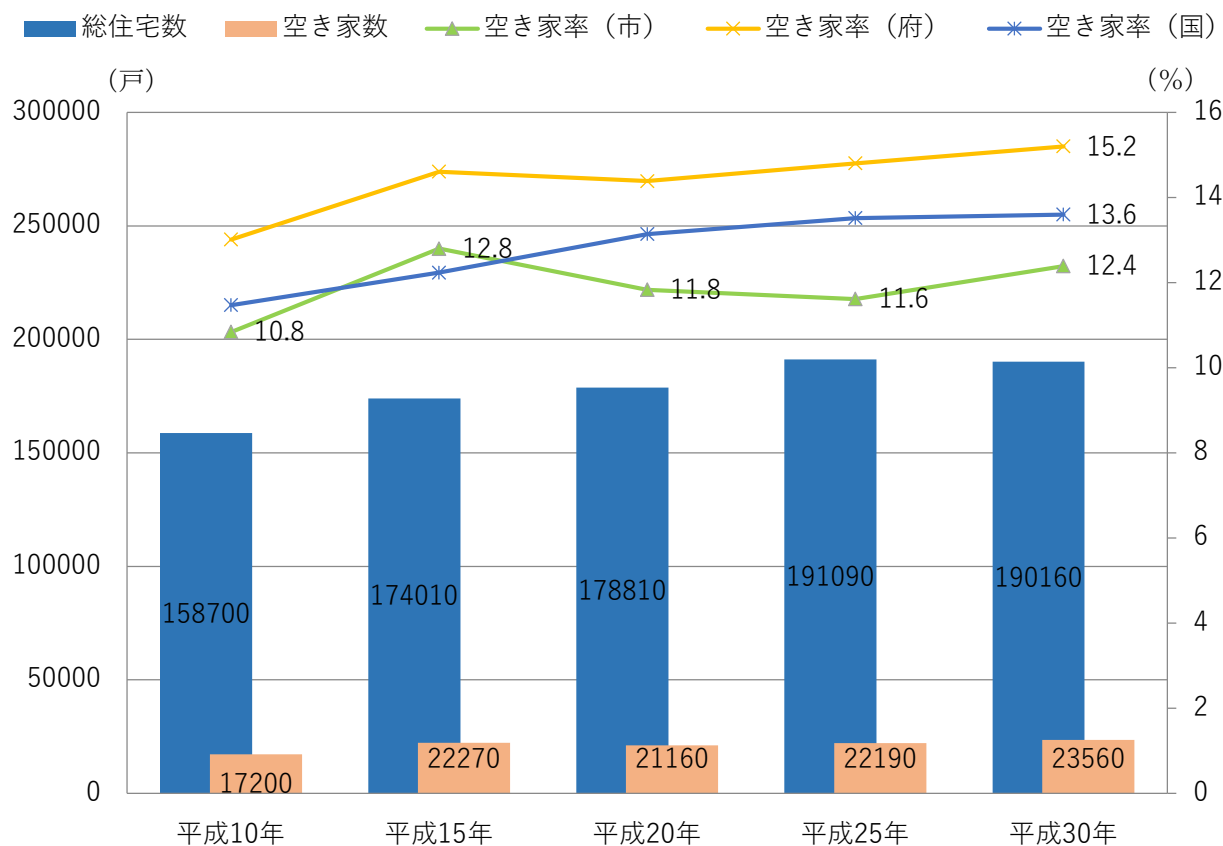
空き家・空き地に関する相談は下図のとおりです。なかでも、空き家の相談件数は平成22年度から平成27年度までに4倍以上に増加しており、平成27年の法施行後の相談件数は大幅に増加しています。なお、平成30年度は大阪北部地震と台風21号の影響による相談を含んでいます。



## （2）枚方市における空き家率

本計画における管理指標である空き家率については、左下図のとおり推移しています。

総務省統計局が5年に1度実施する住宅・土地統計調査によると、平成30年の本市の空き家数は、約23,560戸、管理不良になりやすい「その他の住宅」となる空き家数は、約6,060戸、空き家率は12.4%で、全国平均の13.6%、大阪府の15.2%に比べると比較的低くなっています。



## 空き家の種別の変化

